

## 既設展示コンセプト ①開館時

### 全体コンセプト

#### 1 展示のねらい

- (1) 霞ヶ浦および茨城県の水環境を理解するのに必要な情報を提供する。
- (2) 屋外のフィールドでの体験との連携を考慮しながら、屋外だけでは理解できない環境問題の構造的性（人と環境のつながりなど）を伝える。
- (3) 霞ヶ浦や水環境についての学習や行動を実践することの大切さを実感させる。

#### 2 展示の特色

当展示室は環境学習の場として機能することが望まれることから、知識の習得のみを最終的な目的とせず、環境への意識を持続させ生活の中で行動を実践できる人材育成をめざす。このため、通常の博物館等のように、単純な展示観覧や装置を使った自動学習（セルフ学習）とは異なる、学習プログラム実践の場としての展示室整備を行う。とくに、指導・解説員により人的な触れ合いの中での体験学習（ガイド学習）を重要なポイントと考え、指導・解説員の助言・指導などのもとに、自ら最適な学習方法をつくりだし、多様な形態で学習を展開できるよう、学習資源として有効な展示を実現する。

#### 3 展示ストーリーの流れ

【導入ゾーン】※「1 ようこそ霞ヶ浦へ」ゾーン [エントランス～霞ヶ浦宣言]

一般の来館者は、霞ヶ浦や茨城県の水環境について整理された知識・認識を十分には持っていない場合が多いと考えられる。展示を観覧するに当たり、霞ヶ浦や水環境について興味・関心を募らせ、また必要な基礎情報を与える展示を行う。

【霞ヶ浦変遷ゾーン】※「2 霞ヶ浦の歴史と暮らし」ゾーン [ミニシアター～霞ヶ浦総合開発]

10万年前から現在に至るまでの霞ヶ浦の生成・変化の歴史をたどる展示を行う。地質学・地理学的視点、歴史学的視点、人々の暮らしの視点、治水・利水の視点などから、霞ヶ浦の生い立ちを明らかにする。とくに、明治以降、常陸川水門の建設や霞ヶ浦総合開発といった大規模な開発が実施されるに至る経緯を詳しく描き、さまざまな事業の目的、意義、成果などを理解させる。

【霞ヶ浦学習ゾーン】※「3 霞ヶ浦の生きもの」ゾーン [現在の霞ヶ浦～水槽2台]  
「4 みんなの学び舎」ゾーン

霞ヶ浦について、生物と生態系、生活・産業、水利用と水環境汚染などの多様な視点から解き明かしてゆく展示を集積する。霞ヶ浦の自然や霞ヶ浦の「現在」の状況を理解することができる展示とする。これらの学習素材を活用して、各々が自由にテーマを設定しながら学習活動を展開していける、主要な活動の場として位置づける。

【水環境・水質浄化ゾーン】※「6 清らかな水をめざして」ゾーン [富栄養化とは何か～霞ヶ浦への手紙]

霞ヶ浦をはじめとする茨城県の水環境について、水質の視点からより深く探る展示を行う。霞ヶ浦等の水質の状態やその変化、また水質負荷の要因などを明らかにするとともに、水質を回復・保全するために行われている産・官・学・民それぞれの取り組みを紹介し、水環境保全についての理解と関心を喚起する。

【発表ゾーン】※展示交流広場

茨城県の湖沼・河川の環境保全・創造のために活動する市民たちの成果発表に囲まれながら、利用者たちが自らの未来の霞ヶ浦について考え、描く場とする。

市民の活動成果によって、また利用者が残していくメッセージによって刻々と変化する展示空間とする。

【地球環境ゾーン】※「7 地球環境を考える」ゾーン [地球環境大冒険]

茨城県の水環境からさらに視野を広げ、茨城県の環境問題全般や、地球環境問題についての展示を行う。環境問題について、広い認識・理解を促すとともに、体験的で印象深い展示手法を採用することで、子どもたちが楽しく学ぶことができる場とする。

## 既設展示コンセプト ②平成 22 年度展示拡充時

### 1 目的

茨城県霞ヶ浦環境科学センター（以下、「センター」という。）は、霞ヶ浦の水質浄化に対する取り組みを行う総合的な拠点として、平成 7 年度に開催された第 6 回世界湖沼会議において設置が提唱され、平成 17 年 4 月に設置された施設である。

センターは、「調査研究・技術開発」、「環境学習」、「市民活動との連携・支援」及び「情報・交流」の 4 つの機能を担っており、その中の「環境学習」の一環として、来館者が水環境について学ぶための各種展示を行っている。

その一方で、霞ヶ浦の水質は改善に至っていないことから、霞ヶ浦の水質浄化に向けた取り組みを促進するため、今回、展示を一部リニューアルし、生活排水対策や植生浄化にスポットを当てた展示を導入することにより、県民の水質浄化に対する理解のさらなる促進と来館者の増加を図ることを目的とする。

### 2 基本コンセプト

霞ヶ浦環境科学センターは、平成 17 年 4 月の開設以来、霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼・河川の水質浄化に対する取り組みを行う総合的な拠点として、各種展示を行い水質浄化についての知識の普及・啓発に努めてきたところである。

しかし、水質汚濁の原因の 1 つである生活排水に対し、住民が取り組むべき水質浄化対策についての展示が手薄であったため、住民にとって身近な問題である生活排水対策の重要性と植生浄化の効果についての理解と促進を図ることを目的とした新たな展示物の設置を行う。

生活排水対策の重要性と植生浄化の効果について、子どもにも理解しやすく関心が持てるようなわかりやすい展示とすることを目指す。

### 3 設計コンセプトについての基本事項

- (1) 基本コンセプトに合致した内容の提案をすること。
- (2) 子どもにも分かりやすい内容の提案をすること。
- (3) 日常生活に役立てることのできる内容の提案をすること。
- (4) 展示としての安全性が確保されている内容の提案をすること。
- (5) 見学者が自ら体験できるような内容の提案をすること。
- (6) 団体での見学に対応できる内容の提案をすること。
- (7) イニシャルコスト・ランニングコストともに安価で、メンテナンスが容易な内容の提案をすること。
- (8) バリアフリーに配慮した内容の提案をすること。
- (9) 展示内容の更新が容易な内容の提案をすること。

## 既設展示コンセプト ③平成 26 年度展示室改修・ジオラマ制作時

### 【目的】

霞ヶ浦環境科学センターは、平成 17 年 4 月の開設以来、霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼・河川の水浄化に対する取り組みを行う総合的な拠点として、各種展示を行い水質浄化についての知識の普及・啓発に努めてきたところである。

展示室は、開館以後全面的な改修を行っていないため、霞ヶ浦に関する情報や展示資料の更新がされておらず、展示内容の旧態化等が顕著になってきている。

設立 10 周年となる平成 27 年 4 月に向けて、霞ヶ浦に関する情報提供機能を強化するため、子どもから大人までが、いつ訪れても「新しさ」・「面白さ」を感じられる展示改修等を行い、県民の霞ヶ浦や水環境への関心を高め、環境保全活動等への参加意欲の醸成を図ることを目的とする。

### 【コンセプト】

#### 1 「ようこそ霞ヶ浦へ」ゾーン

霞ヶ浦に愛着と興味を抱かせ、展示見学への動機付けを行う。

#### 2 「霞ヶ浦の歴史と暮らし」ゾーン

霞ヶ浦の成り立ちや治水・利水の歴史を学習し、今日の霞ヶ浦の役割と問題点を知り、人と水環境との関わりの大切さを意識させる。

#### 3 「霞ヶ浦の生きもの」ゾーン

霞ヶ浦の生物と生態系について学習し、霞ヶ浦を取り巻く自然環境の大切さを理解する。

#### 4 「みんなの学び舎」(学習スペース)

子どもから大人までが利用できる学習スペースの確保と資料の充実を図り、来館者が目的に応じて楽しみながら学習ができる場を提供する。

#### 5 「霞ヶ浦流域情報」ゾーン (新設)

霞ヶ浦流域情報(地形・生活・産業・水利用・河川の水質等)を提供して霞ヶ浦の現状と役割、生活・産業との関わりなどについて学習する。

#### 6 「清らかな水をめざして」

霞ヶ浦をはじめとする茨城県の水環境について学び、日常生活で実践できる環境保全活動の方法を考え、水環境保全についての理解と関心を喚起する。

#### 7 「地球環境を考える」

循環型社会の構築などを学び、地球全体の環境問題について広く学習する。

#### 8 「展示交流広場」ゾーン

市民団体、環境保全団体、学校、諸研究機関などにスペースを開放し成果発表や活動報告の場を提供するとともに、センター事業展示(研究室成果、各種普及啓発活動事業の紹介等)、企画展等を実施するなど多様な情報掲出の場として利用し人と情報の交流を促進する。